

学科別カリキュラム,主要科目の特徴・目的(2021年度入学生)

(カリキュラムポリシー 「1.教育内容」より抜粋)

文学部

日本文学科

日本文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1)日本の文学と言語・文化に関して、体系的・通史的な知識や素養を身につける。「日本文学史概説」「日本語学概説」など。
- (2)古代から近現代にいたる各時代の文献や資料を読解する能力や、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。「日本文学講読」「日本語学講読」、各分野の「特殊講義」など。
- (3)4年間を一貫する少人数制の演習科目の履修を通して、問題発見・問題解決の能力、論理的思考力、文章表現力、口頭発表力、情報検索・情報分析の能力を養う。また、共通の課題に取り組むことを通して、自身と価値観や見解を異にする他者と向き合い、いかに協同するかを学んでいく。「日本文学基礎演習」「日本文学演習」、各分野の「演習」(ゼミナール)。
- (4)これまで修得した知識や技能、文学作品を批評・鑑賞する能力や言語の特質を理解する力をさらに発展・応用させつつ、卒業論文という成果にまとめ上げる。
- (5)外国語科目や比較文学・文化関連の科目、全学共通科目の履修を通して、幅広い知識や素養を身につけるとともに、異文化に対する理解を深める。「比較文学・文化特殊講義」「比較文学・文化演習」「基礎教育科目」(外国語)など。

中国文学科

- (1)初年次には必修科目「漢文入門」において文献読解に必要なスキルを学ぶ。
- (2)初年次には必修科目「中国哲学基礎演習1(論語)」、「中国文学基礎演習1(唐詩)」、「中国語学基礎演習1・2」、「中国語入門」において読解力、基礎知識、語学力を養成する。
- (3)2年次には必修科目「中国哲学基礎演習2(孟子)」、「中国文学基礎演習2(十八史略)」、「中国語学基礎演習3・4」、「中国語学基礎演習」において読解力、基礎知識、語学力をさらに伸ばす。
- (4)3年次以降は選択科目で文学、哲学、歴史に関する分野を広く学ぶことで理解を深めるとともに、文学、哲学、歴史から所属するゼミを一つ選択し、自ら設定したテーマを調査し考察を加える。

英米文学科

英米文学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1)英語の実用的な運用能力を高め、国際的な場面で様々な文化的背景の人々とも、主体性・協調性を持って交流することのできる国際感覚を培う。「Freshman Seminar」「Speaking/Writing/Reading English」「英語文化コミュニケーション演習」など。
- (2)英米を中心とする英語圏の文学・文化・歴史・社会への知識を深め、その特徴と多様性の理解を目指す。英米の小説・詩・演劇・児童文学関連科目、「英米児童文学を味わう」「英文学入門」「米文学入門」「イギリス文化論」「アメリカ文化論」など。
- (3)英語の様々な側面をより複眼的、多面的にとらえ、その成り立ちと機能をより正確に理解できるようにする。「英語学入門」「英語の音声」「英語の歴史」「言語のしくみ」「英文法論」など。
- (4)現代社会における文学・文化の価値の展開と発展について理解することで、東洋文化と西洋文化との差異や民族間における文化の差異を越えた交流を行うための知見を深める。「東西文化交流論」「比較文化論演習」など。
- (5)英語・英語圏文学・文化に関し、他者の様々な意見を参照し、それを基礎として、自分自身の意見や思考を論理的に構築する力を養う。「ゼミナール」「卒業論文」など。
- (6)英語以外のヨーロッパ諸言語また他の地域の外国語を身に付ける。「フランス語基礎」「ドイツ語基礎」「スペイン語基礎」「中国語1」など。
- (7)英米文学、英語学、英語圏文化以外の人文学、また社会科学、自然科学に触れることにより、大学生として当然身に付けておかななくてはならない教養と知識および知的好奇心を養う。それと同時に、他分野と専門分野の関連性を見出すことによってさらに深い洞察力を身に付ける。「哲学 AB」「芸術学 AB」「社会学 AB」「経済学 AB」「数学 AB」「生物学 AB」など。

教育学科

- (1)1, 2 年次には、広く深い教養を身につけるために、学部・学科を越えた「全学共通科目」から自然・社会・人文諸科学の各科目、「基礎教育科目」から外国語科目・情報処理科目等を学ぶ。さらに教育学研究の基礎力を養い問題意識を耕すために「教育学科入門科目」としての「基礎演習」を履修する。
- (2)1 年次から 4 年次を通じて「教育学科専門基礎科目」、「教育学科専門科目」、「教育学科演習科目」を学ぶ。それらは教育学・心理学・福祉学・芸術学の領域を柱として、多様性と

系統性を重視して教育課程が組まれている。とりわけ、3, 4 年次で履修する教育学演習（ゼミナール）では、少人数の学習集団の中で専門的テーマを深く研究していく。

(3)1 年次から 4 年次を通じて、幼稚園・小学校の教員免許、保育士資格が取得できる教育課程が用意されているが、教育学の知見に裏づけられた免許・資格となるよう、理論と実践のバランスを考慮した教育課程が組まれている。

書道学科

(1)書道学科は、書作と書学からなる書道学を体系的に学ぶために書作と書学の科目の連携を図り、その基礎力から応用力までを身につける。

(2)外国語科目においては、1 年次の必修科目「中国語学基礎演習 1・2」と 2 年次の必修科目「中国語学基礎演習 3・4」の履修を通して、書道と関連の深い中国語学を習得し、語学力の養成を図るとともに異文化に対する理解を深める。

(3)全学共通科目においては、「文学 A・B」「歴史学 A・B」「情報科学 A・B」といった科目の履修を通して、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。

(4)初年次においては、必修科目である「書道学基礎演習」の履修を通して、書道学の学修に必要な基礎力を養成する。

(5)必修科目群では、初年次において「楷書法 1（書写を含む）」「行草書法 1（書写を含む）」「仮名書法 1（書写を含む）」といった科目の履修を通して、漢字・仮名等の書表現の基礎を修得する。また「日本書道史通論」「中国書道史通論」を履修することにより書道史の基礎力を養成する。さらに 2 年次では「書学基礎研究 1・2」といった科目を履修することを通して書学の基礎を幅広く修得する。

(6)選択科目群では、2 年次において「漢字仮名交じりの書法 1」「篆刻法」といった科目の履修を通して漢字仮名交じり・篆刻等の書表現をも修得する。また 2 年次の「書跡文化財学概説」や 3 年次の「書論講読」等により書論・書跡等の研究能力を育成する。

(7)選択科目群では、「書道美学論」「中国美術史」「日本美術史」「日本文学史概説 A・B」といった科目の履修を通して美学・美術史や文学等の学際領域も広く視野に入れて、現代社会における書文化の機能とあり方を考察できるようにする。

(8)選択科目群では、「日本文化実地演習」といった科目の履修を通して、国内の書跡作品を実際に観察することの意義と鑑賞力を養成する。さらに「漢字文化実地演習」の履修を通して、中国や台湾での書道の体験学習や古今の書跡の鑑賞により異文化に対する理解を深める。

(9)各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるように、3 年次よりすべての学生が書作ゼミと書学ゼミのダブルゼミを受講する他校に類を見ない教育課程を整備している。

(10)4 学年においては、それまでに修得した能力を発展・応用させて「卒業論文」と「卒業制作」としてまとめる。

歴史文化学科

- (1) まず、1年次の専門必修科目である「歴史文化学入門 A・B」において、歴史文化学全般の導入教育を行い、1年次からの基礎的訓練の動機づけを図る。同時に、専門基礎科目で日本史、東西文化、観光歴史学の各コースの概要を周知し、専門支援科目で各コースの専門教育を支援する専門的な言語運用能力の養成を図ることで、2年次からのコース分けに備える。
- (2) さらに、1年次から2年次にかけては、語学科目を中心とした基礎教育科目で、国際社会に通用する国際感覚を身につけるとともに、専門教育の基礎となる多様な一般的学力を身につける。また、多様な現代社会の諸問題に対応できるように、学科の枠を超えた全学共通科目で、人文・社会・自然諸科学にわたる幅広い教養の形成を図る。
- (3) そして、2年次には、専門教育として1年次に続いて専門支援科目の学修を深めると同時に、専門必修科目の「基礎演習」において、それぞれの関心に応じた演習科目を配当する。講義科目としても、1年次からの専門基礎科目に加え、コース分けが行われた後なので、学生が選択したコースに関する様々な専門的領域の研究成果を提示する研究科目を用意する。
- (4) 3年次では、2年次までの基礎的教育の学習成果を発展させて、専門科目を学ぶ。なかでも、専門必修科目の「専門演習」で、各コースそれぞれの専門性に応じた演習が行われる。このように、主体性、創造性や協働性を養うために演習を重視する本学科の立場から、3・4年次には他にも、各コース独自の演習・実習科目を提供する。
- (5) 3・4年次では、各コースの発展的内容を持つ多様な講義科目を設けて、学生の専門領域の学識を深めるとともに、他領域との交流・比較も行うことで、アナロジーやシナジー効果などによる、さらなる発展を図る。このように、本学科は2年次という比較的早い時期に各専門コースに分かれるという特徴を持つが、同時に3・4年次にいたるまで一貫して、多数の他コースの授業も受講できるという特徴もあわせ持っている。
- (6) 4年次では、4年間の学問研究の集大成として、「卒業研究」が行われる。各自が指導教員のもとで、自分のコースの学問領域の中で、さらに特定の専門領域を選択して、これまでの学習成果を自らが選んだ具体的な研究テーマの深化のために活用していく。

経済学部

社会経済学科

- (1) 経済に関する知識・分析手法を基礎から着実に修得できるよう、「経済学の基礎」「現代日本経済」「現代世界経済」「経済データ分析入門」(1年次)、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」(2年次)などを必修・選択必修科目とする。
- (2) 国内外の経済に関する幅広い知見が身につくよう、国際経済、地域経済、経済史、経済

思想、公共政策等の分野において、選択必修科目を多く配置する。

(3)幅広い視野・教養が身につくよう、英語・中国語を中心とした外国語科目、全学共通科目の履修を義務付ける。英語・中国語科目の選択必修科目を多く設置するとともに外部語学検定（TOEIC®/TOEFL®など）の対策のための外国語特殊講座なども整備する。

(4)学生の主体性・協調性・表現力が涵養されるよう、「基礎演習」（1年次）、「専門演習」「一般演習」（2～3年次）、「卒業研究」（4年次）など、学部共通の演習科目を設置する。

(5)社会に対する幅広い関心を持つよう、公共政策・産業事情等の実社会にかかわる専門科目、法学・産業心理学等の隣接領域科目、キャリア特別講座などを充実させる。

現代経済学科

(1)経済に関する知識・分析手法を基礎から着実に修得できるよう、「経済学の基礎」「現代日本経済」「現代世界経済」「経済データ分析入門」（1年次）、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」（2年次）などを必修・選択必修科目とする。

(2)数量的手法に裏づけられた情報分析・問題解決能力が身につくよう、「入門数理」「経済数学」（1年次）、「経済データ分析」（2年次）、「計量経済学」（3年次）などを必修・選択必修科目として設置するとともに、金融論、産業組織論、情報の経済学、経済会計等の分野において、選択必修科目を多く配置する。

(3)幅広い視野・教養が身につくよう、英語・中国語を中心とした外国語科目、全学共通科目の履修を義務付ける。

(4)学生の主体性・協調性・表現力が涵養されるよう、「基礎演習」（1年次）、「専門演習」「一般演習」（2～3年次）、「卒業研究」（4年次）など、学部共通の演習科目を設置する。

(5)社会に対する幅広い関心を持つよう、公共政策・産業事情等の実社会にかかわる専門科目、法学・産業心理学等の隣接領域科目、キャリア特別講座などを充実させる。

外国語学部

中国語学科

(1)1、2年次にはクラス担任制による責任を持った指導を行う。2年次より「中国語・社会（ビジネス）コース」と「中国語・言語（通訳翻訳）コース」に分かれ、前者のコースにおいては現代の中国を理解し中国語をビジネスに活用できる能力を修得させ、後者のコースでは中国語を深く掘り下げて学ぶことで、通訳翻訳のできる能力を修得させる。

(2)いずれのコースにおいても、中国語ネイティブスピーカーの指導により、中国語の読む・書く・聞く・話す能力を確実に修得させる。それと同時に日中関係を視野に入れながら、日中経済動向、日中貿易関係および中国と関係の深い華語圏の社会文化に関する知識を修得させる。

(3)外国語科目としては1年次の英語を必修科目とし、2年次の英語は選択科目とする。全

学共通科目のうち 12 単位を卒業に必要な選択必修科目とする。

(4)問題解決に必要な情報を収集・分析し発表することのできる IT スキルを修得させる。

英語学科

(1)英語コースおよびヨーロッパ 2 言語コースの 2 コース制をとる。英語コースは英語と選択外国語を、ヨーロッパ 2 言語コースは英語とドイツ語またはフランス語を主たる目標学修言語とする。

(2)いずれの目標学修言語においても、日常的な事柄について対話するスキルを向上させる授業科目を置く。

(3)いずれの目標学修言語においても、社会的な事柄や経済・環境・人権・開発・女性などの地球的問題（グローバルイシュー）について語り、また書く授業科目を置く。

(4)英語学およびその関連領域の地域の文化、社会、歴史等について学ぶための、入門、概論、研究という系統だった科目群を置く。

(5)情報を収集し、分析し、発表するための IT スキルを養成する科目群を置く。

(6)自分の力で情報を収集・分析し結論を導き出して発表するスキルを養う、ゼミナールを配する。

(7)学問分野で分類された基本科目、学際的な課題（テーマ）科目、発展科目からなる全学共通科目を置く。

日本語学科

(1)全学共通科目を通して、広く一般的な教養を身につけさせる。

(2)学科の特性を生かした職業選択に応じたキャリア教育を行うとともに、社会人として仕事をするうえでの強みとなる実務的かつ高度な日本語力を身に付けさせる。

(3)初年次においては、必修の基礎教育科目で、日本語の基礎的運用能力を向上させながら、専門的な研究に入るためのスタディスキルや IT スキルを修得させる。

(4)専門教育科目では、日本語学、言語学、日本語教育学関連の必修科目および語学の選択必修科目の学修を通じて、日本語学、言語学、日本語教育学、語学、異文化理解等の能力を修得させる。

法学部

法律学科

(1)全学共通科目：「法学（法律学入門）A・B」を必修とするとともに、その他に豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することをめざして、幅広い学問分野を基礎とした多様

な内容の科目を設ける。

(2)外国語科目：国際性豊かな人材を育成するために、1年次には「英語 A・B・C・D」を、2年次には「応用英語 A・B」、3年次には「現代英語 A・B」を必修科目として履修させ、3年間を通じて段階的に英語の読解、リスニング、会話能力を養成する。また、英語能力をさらに高めたい者のために「コミュニケーション英語 A・B・C・D」を設けるとともに、英語以外の外国語を学びたい者のために多様な外国語科目を設ける。

(3)基礎教育科目：1年次において「英語 A・B・C・D」および「文章表現法 1A・1B」、2年次には「英語応用 A・B」、3年次には「現代英語 A・B」を必修科目として履修させることにより対話能力、文章作成能力を養成する。

(4)専門教育科目（必修科目）：1年次には、「憲法 1A・1B」、「民法 1A・1B」、「刑法 1A・1B」を必修科目として履修させ、その基本的内容を少人数教室講義である「現代社会と法 A・B」において、復習させる。2年次には「基本法学概論 A・B」、「刑法 2A」、「民法 2A・2B・2C・2D」を必修科目として履修させる。1・2年次の専門教育必修科目で学習する内容は、法律学において最も基本的で専門教育選択科目および専門演習において学習する内容の基礎となるものであり、それらの履修を通じて法律学に関する基礎的な知識を身に付ける。

(5)専門教育科目（選択科目）：積み上げ科目としての法律科目の着実な習得を可能とするため、専門教育選択科目は1年次から履修が可能である。「商法」、「民事訴訟法」、「刑事訴訟法」などの六法を構成する法律に関する科目をはじめ「行政法」、「国際法」、「経済法」、「労働法」、「外国法」など多種多様な科目を配置し、自らが目指す職業や興味関心にあわせて、履修を行うことができる。

(6)専門演習：専門演習では、専門教育科目で学習した内容をより深く専門的に学ぶことにより、法律学の知識を深めると同時に、発表、討論などを通じて法的思考、論理的判断力を身に付ける。

政治学科

(1)共通教育においては、必修科目「政治学」と「憲法」の履修を通して、政治学を学ぶ上で必要な基礎概念や社会の仕組み、現代日本政治についての基礎知識を学習するとともに、政治という分野そのものに関する知的好奇心を深める。

(2)1年次から、「政治外交史」および海外の「地域」に関する専門科目を履修できる。時代と地域によってさまざまに異なった姿をもつ政治の実態についての知識や関心を広げる。

(3)1年次から、「法律学系列」「経済学系列」「情報学系列」の科目を履修できる。政治を学ぶ上で重要な分野に関する知識を身につける。

(4)2年次からは、「理論」に関する専門科目、「行政」に関する専門科目として「地方自治論」、そして幅広いテーマを取り扱う「展開政治学」の科目を履修できる。「海外地域政治研究」とあわせ、地域社会から国内政治、国際社会に至るさまざまなレベルにおける政治の動

きに対する理解を深め、自らの関心のある専門分野を発見する。

(5)3年次からは、「国際」に関する専門科目、および「行政」に関する専門科目として「行政学」「公共政策論」を履修できる。このほか、「法律学系列」「経済学系列」「情報学系列」の諸科目においても、さらに広範な知識を身につけることができる。

(6)必修科目の「英語」及び選択科目の「ドイツ語」・「フランス語」等の履修を通して、外国語の習得に対する意欲を深め、外国語によるコミュニケーション能力を育成する。

(7)政治学に関連して哲学、心理学や自然科学等の諸分野の科目を履修することによって、より深くより広く社会を理解し、世界の未来像を描く能力を育成する。

国際関係学部

国際関係学科

(1)アジア諸地域に関する基本的な知識を修得させるため、国際関係論を必修科目とし、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの4地域の地域研究科目10科目20単位以上を選択必修とする。

(2)アジア地域や異文化に関する学修を、特定の専攻分野の選択やキャリア形成につなげるために、「国際協力・多文化共生」「国際ビジネス」「異文化理解」の三つのクラスター（科目群）を設置する。

(3)外国語によるコミュニケーション能力を修得させるため、「Global English」(1年次必修)と言語文化講座(8言語)を開設し、現地研修や海外留学の奨励、各種検定の単位認定制度等によって外国語学習を支援する。

(4)諸課題の解決に必要な情報の収集・整理・分析、報告や討論の技術を実践的に学ばせるために、1年次のチュートリアル、2年次の基幹演習Ⅰ・Ⅱを必修科目として開設する。

(5)専門演習(3年次)と卒業論文演習(4年次)を必修科目とし、4年間の学びの集大成としての卒業論文の作成に取り組ませる。

(6)特定の専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために、クラスター科目に加え、より実践的な「企業と雇用」「インターンシップ準備講座」等を開設する。

(7)アジア理解の基礎となる幅広い教養を培うために、全学共通科目と外国語科目(ドイツ語・フランス語)を選択科目として配置する。

国際文化学科

(1)アジア諸地域に関する基本的な知識を修得させるため、比較文化論を必修科目とし、東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの4地域の地域研究科目10科目20単位以上を選択必修とする。

(2)アジア地域や異文化に関する学修を、特定の専攻分野の選択やキャリア形成につなげるために、「国際協力・多文化共生」「国際ビジネス」「異文化理解」の三つのクラスター（科

目群)を設置する。

(3)外国語によるコミュニケーション能力を修得させるため、「Global English」(1年次必修)と言語文化講座(8言語)を開設し、現地研修や海外留学の奨励、各種検定の単位認定制度等によって外国語学習を支援する。

(4)諸課題の解決に必要な情報の収集・整理・分析、報告や討論の技術を実践的に学ばせるために、1年次のチュートリアル、2年次の基幹演習Ⅰ・Ⅱを必修科目として開設する。

(5)専門演習(3年次)と卒業論文演習(4年次)を必修科目とし、4年間の学びの集大成としての卒業論文の作成に取り組みさせる。

(6)特定の専攻分野の学びをキャリア形成に役立てるために、クラスター科目に加え、より実践的な「企業と雇用」「インターンシップ準備講座」等を開設する。

(7)アジア理解の基礎となる幅広い教養を培うために、全学共通科目と外国語科目(ドイツ語・フランス語)を選択科目として配置する。

経営学部

経営学科

(1)初年次より、基礎教育の科目を必修として配置する。選択科目として学部・学科を越えた全学共通科目や外国語科目等を設ける。

(2)2年次からは、経営学・会計学・知識情報マネジメント・マーケティングの4コースを設け、ビジネスに関するきめ細やかな理論的・実証的指導を行う。

(3)3年次からは、さらにそれらの知見に基づき実践的な課題にも対応できるように専門演習科目を配置する。

(4)グローバルで革新的な学問分野を取り入れ、企業活動・ビジネス環境に対応した科目を配置する。

(5)実務家や企業家を招き、社会の課題を実践的に解決する講座を開講する。

スポーツ・健康科学部

スポーツ科学科

(1)1年次には、必修科目のスポーツ科学概論、生理学や解剖学などを通してスポーツ科学の基礎を学修し、2年次以降でスポーツ科学の専門的な各種分野を、3年次には各演習科目およびゼミナールにおいて専門的に学修する。

(2)実技科目として、1年次には陸上競技、水泳、器械運動を必修とし、2年次では各種球技系科目(基礎)を学修し、3年次の各種球技系科目(発展)さらにはコーチングへと発展さ

せる。

(3)外国語科目として英語を1～2年次において必修とし、加えて中国語、コリア語、フランス語及びドイツ語の中から1つを選択することにより、外国語教育を通して、異文化の理解に加えて自国の言語や文化を客観的に見直すとともに、バランスのとれた国際感覚を養う。

(4)専門科目とは別に、1年次の「フレッシュマンセミナー」を通じて大学生として身につけてほしい基礎的な能力を養い、2年次には「スポーツキャリアセミナー」により各自の進路について考え、目的を達成するために自ら行動する能力を育成する。

(5)4年間を通じて、全学共通科目を履修することにより幅広い教養を修得する。

健康科学科

(1)基礎教育科目・語学では、必修科目の生命倫理学、英語A/B、および人文・社会系の全学共通科目（自由科目）を通じて、生命の尊厳に基づく倫理性、国際性、社会性を学ぶ。

(2)専門教育科目では、健康科学のエキスパートとして科学的な思考力と判断力を養成するための生化学A、生理学、分子生物学の必修科目に加えて、さらに免疫学、血液学、病理学などの基礎医学領域から臨床医学総論、臨床病態学A、Bなどの臨床医学領域に及ぶ科目についての講義・演習・実習の履修を通して、実学的かつ実践的な能力を育成する。

(3)初年次においては、基礎科学、基礎生物学、化学、健康科学基礎演習などのリメディアル科目において、健康科学を学ぶために必要な学習スキルを学ぶ。

(4)資格関連科目として、臨床検査技師資格取得、食品衛生管理者、食品衛生監視員、第二種作業環境測定士などの4つの資格に関する専門科目を配置し、各学生が自らの希望・選択する分野でより専門的履修が行えるよう教育課程を設定する。

看護学科

(1)総合基礎科目（全学共通科目・基本スキル科目）、専門基礎科目（人体の構造と機能、疾病と治療、地域社会と医療福祉）、専門科目（看護の基盤、看護の実践Ⅰ、看護の実践Ⅱ、看護の実践Ⅲ、看護の統合）の3つの科目群で構成する。

(2)総合基礎科目では、深い教養と豊かな人間性を身につけ、異なる文化や考え方、多様な価値観が理解できるよう全学共通科目などで幅広い分野を学習する。また、1年次より、必修科目の基礎ゼミナール、コモンスキル、情報処理、人間関係論などを通して基本的な技能（ジェネリックスキル）を修得する。

(3)英語を第一外国語とし、英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ、医療英語、英語ゼミナールを1～2年次を中心に学習する。医療英語では、外国人患者とのコミュニケーションスキルを、英語ゼミナールでは英語の文献抄読に必要なスキルを学習する。第二外国語として選択科目の中国語、コリア語、フランス語、ドイツ語を設定する。

(4)専門基礎科目では、さまざまな健康状態や発達レベルにある看護対象者を全人的に理解

するため保健・医療・福祉の基礎とあり方を学習する。必修科目として、人体の構造と機能 I～II、人間と栄養、生化学、微生物学、疾病・治療学 I～V、病態論、薬理学、郷土論（埼玉学）、公衆衛生学、保健医療統計学、医療情報学、保健医療福祉制度論などを1～3年次に配置する。また、臨床心理学概論、社会福祉学、生命倫理学を選択科目として配置する。

(5) 専門科目では、看護の基盤を学習した上で、看護の実践 I（理論と方法）、看護の実践 II（臨地実習）、看護の実践 III（看護の発展）において対象や場に応じた看護学を学習し、さらに、看護の統合では体系的に看護学を学習する。

社会学部

社会学科

(1) 全学共通科目

豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することをめざして、幅広い学問分野を基礎とした多様な内容の科目を設ける。

(2) 基礎教育科目

英語、フレッシュマンセミナーなどを通して、社会生活に必要なコミュニケーション能力や協調性を養う。出来る限り専門教育科目との関連性を持たせ、学習意欲を高める。また、さらなる英語力の向上のための科目（選択必修科目）および英語以外の未修学外国語科目（選択科目）を設ける。

(3) 専門教育科目（演習）

社会学を学ぶ学生に相応しいリテラシーを育成するため、基本技術の習得から始めて、演習を各学年に必修科目として設ける。

(4) 専門教育科目（コース制）

専門的知識の修得と実践的な思考を養うために、十分な専門科目（選択必修科目）を配置するとともに、2年次から「多文化と共生コース」「都市と地域コース」「メディアと情報コース」を設けて、各コースに係る専門科目を体系的に配置する。

(5) 専門教育科目（社会調査関連）

1・2年次に、社会学の基礎知識や方法論を培うための理論と分析のためのツールを修得する社会調査関連科目「社会調査 I・II」「社会統計入門」を設ける。さらに、2年次以降に「社会調査士」資格の取得に必要な科目を設ける。

(6) 専門教育科目（心理学関連）

マーケティング分野や教育福祉の現場で求められる人材に必要とされる心理学関係の科目「社会心理学」、「産業心理学」などを設ける。データの裏付けを基に、人間の行動や心理を理解するための手法を学べると同時に、「認定心理士」資格取得の可能性にも配慮する。

(7) 専門教育科目（卒業研究）

社会学部における学修の集大成として、必修科目で卒業研究（卒業論文または卒業作品）を設ける。

(8) 問題発見・解決型学習（PBL）科目

地域社会との繋がりや企業・行政・諸団体等における就業体験などのアクティブ・ラーニングを通して、問題発見・解決にかかわる能力の向上・修得をめざした「社会調査実習」「国内研修」「海外研修」「インターンシップ」「社会活動」などの科目を設ける。